

【様式1】 平成29年度「岐阜県ふるさと教育表彰」実践報告書

市町村名	白川村	学校名	白川村立白川郷学園			
校長名	水川 和彦	対象学年	8年生	人数	12	人
活動名	郷土を全国に発信する 特産物の開発		時間数	35 時間	継続年数	1 年
題材	1 自然環境（山野・河川・動物・植物・その他） [] 2 歴史（出来事・史跡・先人・その他） [] 3 文化（芸能・芸術・民話・風習・その他） [] ④ 地場産業（農業・水産業・伝統工芸・その他） [白川郷いなりの開発] ⑤ 地域との積極的な関わりをつくる活動等 [白川郷いなりのPR] 6 その他（ ） []					
複数年継続するための工夫改善	・本活動は、義務教育学校の特色ある教育活動である「ふるさと学習」と「白川びと学」として位置付け活動を進めた。 ・目指す姿（郷土の全国発信）を明確にし、開発から製造依頼、販売というプロセスの中で、絶えず相互評価と外部（地域から）評価を行った。					
<p>1 ねらい</p> <p>村の「担い手」として、「食」を通して、郷土白川村に貢献する。村の食材とマンパワーを使って、白川郷を全国に発信する特産物を開発する。</p> <p>2 活動の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> 合掌造りをモチーフに「いなり寿司」のアイデアを出し、村産具材や味付け等、家庭科担当や栄養職員の助言で試作。試行錯誤を重ね完成し「白川郷いなり」と命名。 商品を売り出すコツを村役場観光振興課や村内店舗（食堂）経営者から学び、ポスターやパッケージ、紹介パンフレット等のデザインを工夫した。 村内の食品製造業者にレシピを紹介し、試作依頼をした。村内（合掌園）で自作のポスターやパンフレットを使用し、生徒自ら店頭立ち、模擬販売を実施した。 模擬販売の成果（100食完売）と課題（PRの弱さ）を生かし、高山市の食品製造業者と連携し、高山市内で「白川郷いなり」を販売した。（予約も含め350食完売） 「道の駅白川郷」と連携協定を結び、常時販売にこぎつけ、販売初日にPR活動を行った。ここまでの取り組みを地域公開日「子ども未来会議」で発表する。 <p>3 地域住民との関わり、地域社会への貢献の様子</p> <p>学校運営協議会の学校支援部の全面的なバックアップにより、商品開発のノウハウや販売方法、村内の店舗の紹介等、多くの情報を得て学習を進めることができた。さらに、ゲストティーチャーや役場・店舗等との連携をスムーズに行うこともできた。村当局や教育委員会との連携で「白川郷いなり」の魅力が発信され、本格販売に結びついた。</p> <p>4 活動を通しての生徒の変容</p> <p>生徒たちは、自分たちの企画した物が、実物となり商品となり売れていくことを経験し、物を創り上げる喜びと人に喜ばれる心地よさを学んだ。同時に、この商品化に至るまで、多くの地域住民が関わった感謝の気持ちも学んだ。当初の販売した姿から本格販売まで、数々のプレゼンや店頭PRを経験し、堂々と表現する力も確実についてきた。</p>						